

# 新田義貞の攻め入った稲村ヶ崎から 坂ノ下、長谷界隈へ —海街 diary ロケ地や鎌倉文学館も—

《コース》 江ノ電鎌倉駅＝(江ノ電)＝極楽寺駅～極楽寺～月影地藏堂～陣鍾山尾根～聖福寺跡～十一人塚～稲村ヶ崎公園～針摺橋～仏法寺跡下～喫茶由比(昼食)～坂ノ下～御霊神社～大太刀稲荷神社～甘縄神明社～鎌倉文学館～七里ガ浜駅(解散 15 時頃)  
行程 6 km、高低差有り。

見どころ 鎌倉を舞台に家族の絆を描いた映画『海街 diary』のロケ地、極楽寺駅周辺から長谷方面を巡ります。極楽寺奥は、主人公「すず」ら四姉妹の住んでいっている所です。忍性上人の足跡を極楽寺に訪ね、陣鍾山を越えて聖福寺跡、稲村ヶ崎から霊仙山(仏法寺跡周辺)をまわって新田義貞の鎌倉攻めに思いをはせます。坂ノ下の路地や御霊神社付近はロケ地の宝庫です。そして甘縄神社から鎌倉文学館へ長谷の街並みを楽しみます。

## 海街 diary

海街 diary は、吉田秋生原作の漫画で、離れて育った異母妹すずを四女として引き取り共同生活を始めた極楽寺に住む四姉妹の物語です。2013 年、第 11 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞、マンガ大賞 2013 を受賞した。

2015 年 6 月には実写映画が公開された。映画は、是枝裕和監督で、主人公の香田家四姉妹(幸、佳乃、千佳、すず)には、綾瀬はるか、長澤まさみ、夏帆、広瀬すずを配し、美しい鎌倉の風景の中で進行して観客動員 100 万人以上のヒットとなり、昨年第 39 回日本アカデミー賞最優秀作品賞を受けた。



### \* 極楽寺駅

明治 37 年 4 月 1 日江ノ電が藤沢から極楽寺間開通し開業した。平成 11 年には「関東の駅百選」に選定された。

### \* 極楽洞

江ノ電唯一のトンネルで明治 40 年竣工。極楽寺側には「極楽洞 西湖」、鎌倉側は「千歳開堂 海東書」と記されている。西湖は、日露戦争当時の大蔵大臣曾禰荒助で、海東は、元老松方正義の号。平成 22 年鎌倉市重要建築物に指定された。

### \* 導き地藏堂

極楽寺の忍性が文永四年(1267)に運慶作の地藏を安置したのが始まりといわれる。現在の地藏像は室町時代の作といわれている。



## 極楽寺駅周辺と海街 diary ロケ地

海街 diary の主人公香田家四姉妹は、極楽寺駅を最寄駅として桜橋をわたった先に住んでいる設定になっていて極楽寺駅、導き地藏堂、極楽洞、極楽寺は色々な場面で登場する。導き地藏堂では、ウラフ活動の帰りに雨に降られたさすが雨宿りをしている。極楽寺は、四姉妹の祖母の法事や、香田家が懇意にしていた海猫食堂の女主人の葬儀の場面に出てくる。

極楽寺駅周辺は、昭和 51 年のテレビドラマ「俺たちの朝」以来、テレビや映画ロケ地として知られるようになり、最近ではテレビドラマ「(続)最後から二番目の恋」では主人公吉野千秋（小泉今日子）と長倉和平（中井貴一）らの最寄駅として登場した。

### \* 極楽寺

【山号・寺号】<sup>りょうじゆせん</sup> 靈鷲山 感応院 極楽律寺

【宗派】真言律宗、【創建年】正元元年（1259 年）

【本尊】釈迦如来、【開山】忍性、【開基】北条重時  
正元元年（1259 年）深沢にあった極楽寺を北条重時が当時地獄谷といわれた当地に再建したと伝わる。重時は完成を待たずに亡くなり文永 4 年（1267）重時の子長時（六代執権）と業時が忍性を招いて開山とした。忍性は、施薬悲田院、療病院、福田院などを設け、不幸な人や病人を救済する福祉事業を行った。寺の最盛期には七堂伽藍 49 院を有する大寺院であったが、自然災害や火災、新田義貞の鎌倉攻めで兵火にかかるなど被害を受けた。その後も復興、被災を繰り返し、現在は本堂のみとなった。



転法輪殿（収蔵庫）には、本尊で清涼寺式釈迦如来像として知られる木造釈迦如来立像（国重文）の他、釈迦如来坐像（国重文）、十大弟子立像十軀（国重文）などが納められている。

### \* 月影地藏堂

月影地藏堂は、元は「十六夜日記」で知られる阿仏尼が住んだ月影ヶ谷にあったが、江戸時代に当地に移された。鎌倉時代の親孝行な娘露の悲しい伝説が伝わる。

### 新田義貞の鎌倉攻め

元弘三年 5 月 8 日（1333 年 6 月 20 日）、新田義貞は上野国生品明神において 150 騎で鎌倉幕府打倒の兵を挙げた。新田勢は小手指原の戦い（11 日）、久米川の戦い（21 日）、そして分倍河原の戦い（15、16 日）で、幕府軍を破り、鎌倉に押し寄せた。

5 月 18 日、新田勢は軍勢を三つに分け、巨福呂坂、極楽寺坂、化粧坂の三方から攻撃を開始した。新田勢の兵力は優勢であったが、天然の要塞である鎌倉の守りは固く、混戦が続いた。

極楽寺坂（極楽寺切通し）では、幕府方の大仏貞直が守備していた。18 日未明に浜手の大将大館宗氏率いる新田勢の一部が稲村ヶ崎の波打ち際を通して鎌倉へ突入した。しかし長崎氏ら幕府勢の包囲攻撃にあい、稲瀬川付近で大館宗氏ら十一人が戦死、生き残った兵は退却し、宗氏子息の氏明が指揮を執り、南方の霊山に立てこもったとされている。なお、『太平記』では宗氏の戦死は 19 日で、大仏貞直の近習である本間山城左衛門の突撃によるとされている。

新田義貞、脇屋義助の主力が率いる化粧坂の攻防戦は幕府の金沢貞将の守りが固く、攻めあぐんだ。義貞はこの方面での戦いを脇屋義助に任せ極楽寺方面へと転戦した。



## \* 聖福寺跡

建長六年（1254）北条時頼が子供の時宗（幼名を正寿丸）と宗政（幼名を福寿丸）が無事成長することを祈って建てた寺で、二人の名をとって「聖（正）福寺」としたといわれる。室町時代には廃寺となった。聖福寺は新田義貞が鎌倉攻めのときに陣を置いたと伝わる。

## \* 十一人塚

新田軍の浜手の大将大館次郎宗氏とその軍は5月18日未明極楽寺口を稲村ヶ崎から突破したが、猛反撃を受け宗氏は稲瀬川付近で討ち死にし、最後まで残った十人も自刃した。そこに十一人を葬り十一面観音の堂を建てその霊を弔ったので十一人塚と呼ばれている。元は御霊神社の近くにあったという。太平記では宗氏の戦死を19日のこととしている。

## \* 稲村ヶ崎公園

極楽寺方面から山続きの岬が稲束を積み上げたように見えるので稲村ヶ崎と名付けられたと云う。鎌倉時代には霊仙山から稲村ヶ崎までの一連の山が通行を遮り岬の下の方砂上にわずかに通れる小道があったと云われる。忍性により極楽寺坂切通しが開通した後は廃れたようだ。

『太平記』によれば、新田義貞は5月22日未明、稲村ヶ崎で黄金造りの太刀を海に捧げ事の成就を祈願した。すると潮が引き干潟が広がり海岸から鎌倉市中へ攻め入ったといわれる。なお、霊仙山の仏法寺を攻略し鎌倉へ攻め込んだとの説もある。

## \* 針摺橋（我入道橋）

この付近に針を磨く老婆が住んでいたとか、極楽寺の塔頭にいた我入道という坊さんが針を磨いていたとか云われる。七里ガ浜に砂鉄の多い砂があるとか、近くに金山という地名があったなど鉄製品の原料をこのあたりに求めていたことが分かる。

## \* 霊仙山（仏法寺周辺）

かつては極楽寺の境内で支寺の仏法寺があった。鎌倉時代、極楽寺は和賀江嶋に出入りする船から関税を得ていたが、当地から出入りの船舶を監視していたという。平成12年から13年に行われた発掘調査で古絵図通りに寺跡や晴雨池跡さらには五合枳遺跡などが確認された。

当地は、元弘三年（1333）の新田義貞の鎌倉攻めでは攻防の重要拠点であった。

## 坂ノ下から御霊神社周辺とロケ地

坂ノ下の由比ヶ浜沿いの歩道や、御霊神社付近は、四女すすが、クラスメートと学校帰りによく歩いた。坂ノ下の路地を抜け御霊神社へ向かう途中、力餅屋で、すすは風太とまんじゅうを買っている。

御霊神社前の踏切横は、テレビドラマ「続最後から二番目の恋」の主人公吉野千秋（小泉今日子）と長倉和平（中井貴一）が隣りあわせで住んでいる設定になっている。また長倉の弟真平が営むカフェナガウは、近くのCaféがモデル。



## \* 御霊神社

【祭神】鎌倉権五郎景政、【創建】不詳(平安時代後期)|

もとは関東平氏五家の始祖、すなわち鎌倉氏・梶原氏・村岡氏・長尾氏・大庭氏の5氏の霊を祀った神社であったとされ、五霊から転じて御霊神社と通称されるようになった。後に、鎌倉権五郎景政の一柱のみに祭神は集約され、祭神の名から権五郎神社と呼ばれた。

景政は、源義家の陣営に連なって後三年の役（1083年-1087年）に従軍し武勇をもって知ら



れた。志の成就（学業成就、必勝招来）、眼病平癒にも効験があるとされる。

#### \*大太刀稻荷神社（御嶽神社）

昔は「太刀持ち稻荷」と呼ばれていた。太刀を落とした武将を白狐が守ったとの話が伝わる。その後、山岳信仰の人たちが御嶽神社を合祀した。

このあたりで大館宗氏が討ち死にしたとの説がある。

#### \*稲瀬川

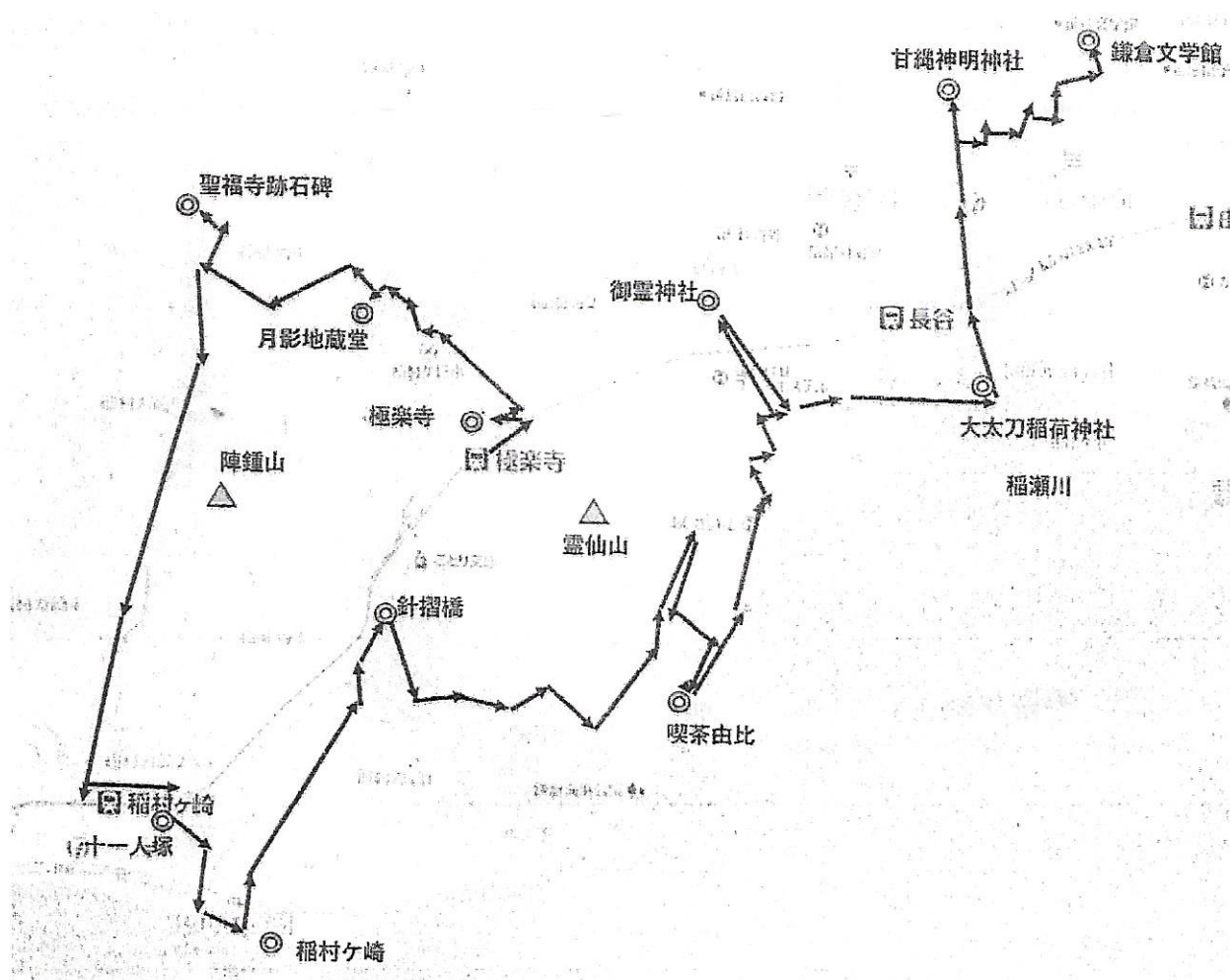
源頼朝の妻の政子は、治承四年（1180）10月の初めての鎌倉入りの時、日柄を選ぶため数日間この川辺の民家に滞在した。また頼朝が、元暦元年（1184）に弟の源範頼が平家追討に出発するのを見送った。翌年に亡父源義朝の遺骨を出迎へたのもこの川辺である。

#### \*甘縄神明社

和同年間（708～715）、由比の長者と呼ばれた染屋時忠が建立した鎌倉最古の神社といわれ長谷の鎮守で、天照大御神を祀る。源頼義が祈願して子の八幡太郎義家を授かったと伝えられる。また、境内には八代執権北条時宗の「産湯ノ井」が残されている。

#### \*鎌倉文学館

侯爵 前田利為が昭和 11 年（1936）に洋風に建てた。戦後の一時期、デンマーク公使や内閣総理大臣 佐藤栄作の別荘として使用された。昭和 58 年に前田家から鎌倉市に寄贈され、外観をそのままに内部の補修・収蔵庫の新築をおこない、昭和 60 年 10 月 31 日に開館した。平成 12 年 4 月 28 日、国の登録有形文化財となった。



本日はNPO法人鎌倉ガイド協会の史跡めぐりにご参加いただきありがとうございました。